

2023年(令和5年)1月27日(金曜日)

東京 豊 糸川 厚

(第3種郵便物認可)

## 大妻嵐山高 入選1等

### 教諭賞も熊谷西高は2等

#### 学生科学賞中央審査

第66回日本学生科学賞(読売新聞社主催、旭化成協賛)の中央審査で、県内からは大妻嵐山高「みつばちLABO」が入選1等、県立熊谷西高自然科学部が入選2等に選ばれた。また、大妻嵐山高の鈴木崇広教諭に指導教諭賞が贈られた。受賞者に喜びの声を聞いた。



入選を喜ぶ山下さん(左)と関根さん(大妻嵐山高校で、荻原さんは取材時に欠席しました)

#### 花粉の色同じ花でも違い

入選1等 「セイヨウミツバチの花粉荷の観察」

大妻嵐山高

みつばちLABO

山下麻梨さん

関根ひかりさん

荻原蒼さん

(いずれも2年)

ミツバチ好きの生徒が有志団体を作り、昨年3月から校内で飼育を始めた。巣の掃除など世話をしている中

で、「ミツバチの生態を知りたい」と思うようになつた。ミツバチは、付着させた花粉を練り合わせ、団子状の「花粉荷」にして巣に持ち帰る。この花粉荷を電子顕微鏡で分析し、ミツバチがどの花から蜜や花粉を採ってきたのか明らかにしようとした。同じ花の花粉荷でも、花粉の密度によって色が異なることがわかった。これまでの研究では、「花粉の色は花の種類で異なる」と考えられていた。また、観察を続ける中でミツバチが季節によって蜜を採取する花を変えていることが確認できた。

研究を振り返り、関根さんは「ミツバチが自分たちの意思を持って蜜や花粉を採っているとわかった。愛着が湧いた」と語った。山下さんは「次は長期間にわたって花粉荷を採取し、ミツバチの1年間の生態を明らかにしたい」と意欲を見せた。

指導教諭賞  
大妻嵐山高  
鈴木 崇広 教諭 32



指導教諭賞を受賞した鈴木教諭(大妻嵐山高校で)

#### 世界的な科学者を育てたい

科学教育で優れた実績を戸高でも、科学部顧問として残す教諭に贈られる賞に輝き、「本当にありがとう。一緒に研究を頑張ってくれた生徒たちのおかげだ」と感謝の気持ちを表した。大学では理学部で量子化学を専攻。「科学を通じて人と関われる」仕事に魅力を感じ、教師を志した。大妻嵐山高のほか県立坂と語った。